

米国 自動車の買い控えにより下ぶれ (07年6月小売売上高)

発表日：2007年7月13日(金)

～年初の高い伸びから鈍化したが依然として基調はしっかり～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
			除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
06/06	+0.3	(+5.3)	+0.3	+0.1	+0.2	+1.9	+0.7	+0.4	+1.3	+0.9
06/07	+1.0	(+4.6)	+0.7	+1.3	+2.2	▲0.2	+0.2	+0.9	+0.9	+2.4
06/08	+0.1	(+6.3)	+0.2	▲0.2	▲0.3	+0.4	+0.3	+0.0	▲0.4	▲1.1
06/09	▲0.6	(+5.4)	▲1.0	+0.1	+0.7	+0.5	+0.2	▲1.3	+2.8	▲9.6
06/10	+0.0	(+4.9)	▲0.2	+0.3	+0.9	▲1.0	▲0.9	▲0.3	▲1.2	▲4.5
06/11	+0.3	(+4.5)	+0.5	+0.1	▲0.1	+0.1	+3.4	+0.6	▲0.7	+3.2
06/12	+1.1	(+5.6)	+1.1	+0.9	+1.1	▲0.1	+1.3	+1.0	+1.1	+3.7
07/01	▲0.0	(+2.2)	+0.2	▲0.4	▲0.8	+2.0	▲1.6	+0.4	+2.8	▲0.0
07/02	+0.6	(+3.6)	+0.5	+0.4	+0.8	▲0.1	+0.4	+0.9	▲1.7	+1.6
07/03	+1.0	(+4.4)	+1.1	+0.7	+0.6	+0.0	▲1.0	+1.0	+2.0	+3.1
07/04	▲0.3	(+2.8)	▲0.1	▲1.3	▲1.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲1.7	+1.2
07/05	+1.5	(+5.0)	+1.6	+1.9	+1.1	+0.3	+1.1	+1.4	+2.5	+4.1
07/06	▲0.9	(+3.8)	▲0.4	▲2.7	▲2.9	▲3.0	▲1.4	+0.0	▲1.4	▲1.1

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

自動車を除く小売売上高は前月比▲0.9%と失速

07年6月の小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.9%と前月の同+1.5%から失速した。下落幅は市場予想の同▲0.1%を上回った(4、5月合計で0.1%下方改定)。

項目別にみると、耐久財では家具、自動車、家電が減少し、耐久財全体もマイナスに転じた。非耐久財では飲食店売上、スポーツ用品が鈍化したうえ、建設資材、ガソリンスタンド売上、衣料品販売、一般小売、その他が減少した。一方、通信販売、薬局での売上が増加したため、非耐久財全体では横ばいとなった。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は建設資材、衣料品、ガソリンスタンド、飲食店の減少によって前月比▲0.4% (前月同+1.6%) と市場予想に反し下落した(4、5月合計で0.1%ポイント上方改定)。全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は自動車販売の減少により前月比▲0.9% (同+1.3%) とマイナスに転じた。

自動車販売は7月に再び拡大に転じる可能性

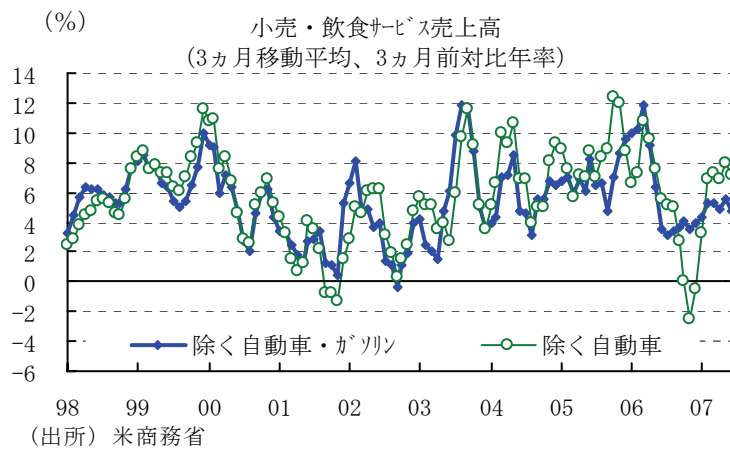
以上のように、6月の小売売上高(除くガソリン)は、ガソリン価格の高止まりを受けたSUVなど金額の高い車の販売鈍化によって自動車売上が減少したため失速した。しかし、雇用・所得環境が良好なもとで、ガソリン価格の上昇に一旦歯止めがかかっていること、一部の自動車メーカーが再び販促を強化していること、今後新型モデルの発売効果が期待できることから、自動車販売は7月に増加すると見込まれる。

なお、6月末に発売され2日間で約50万台売れたとされるiPhoneの売上が今回カウ

トされていないとみられること、iPhoneの購入のために他の消費を抑制した動きもあったとみられることも、家電販売が下ぶれた要因になった可能性がある（今後6月分の家電販売が上方改定されるか、あるいは7月の家電販売が押し上げられる可能性がある）。

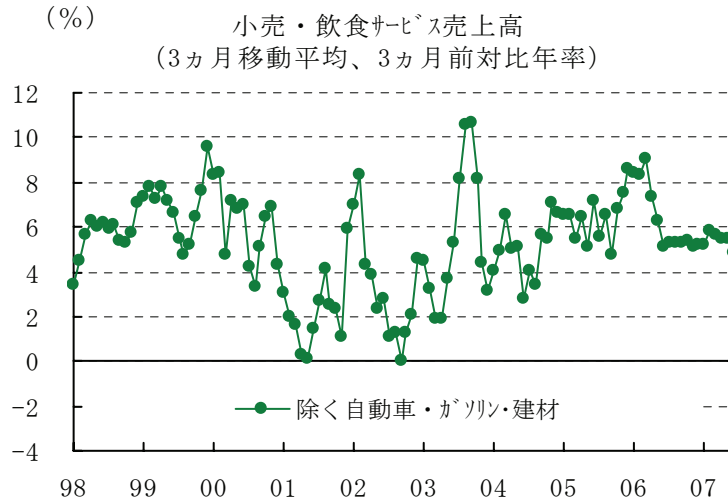
小売売上高は堅調さを維持

月次での変動を均すため3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で消費のモメンタムをみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+7.2%（前月+8.0%）と高い伸びを維持した。ただし、この数字はガソリン販売が価格の上昇により高い伸びとなった影響が含まれている。このようなガソリン価格変動の影響を除くために自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高をみると6月に+4.8%（同+5.6%）と鈍化したが高い伸びを維持している。サブプライム問題やガソリン価格の高止まりが続くなかで、良好な雇用・所得環境、株式資産残高の増加を背景に、消費は堅調さを維持していると判断される。

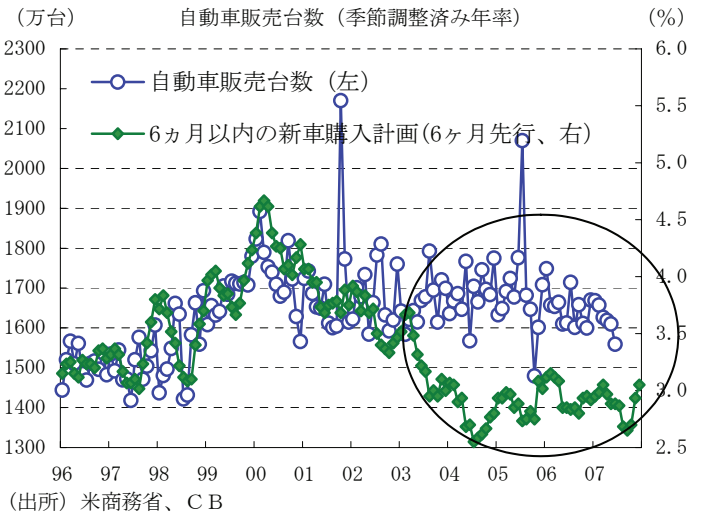
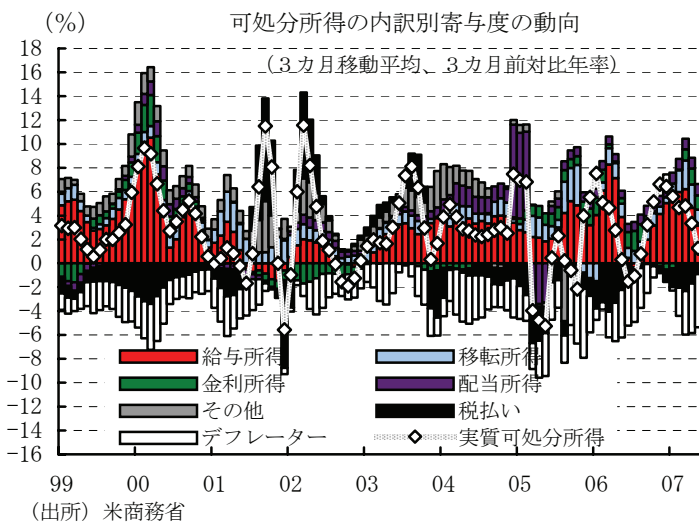
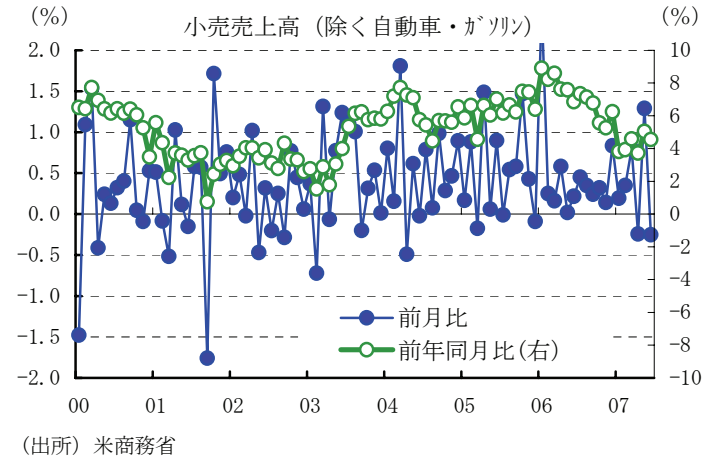
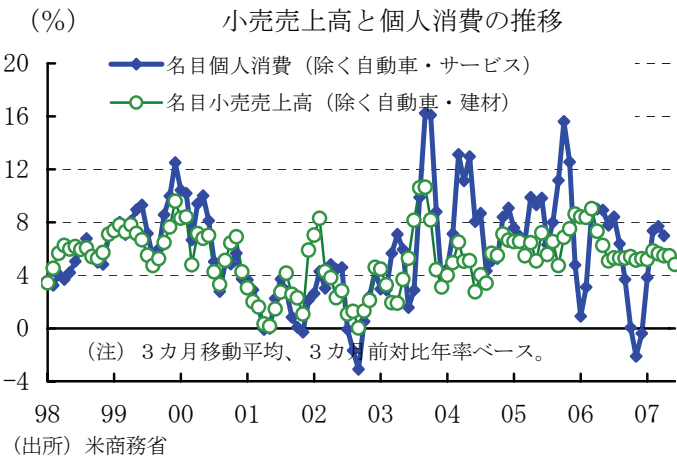
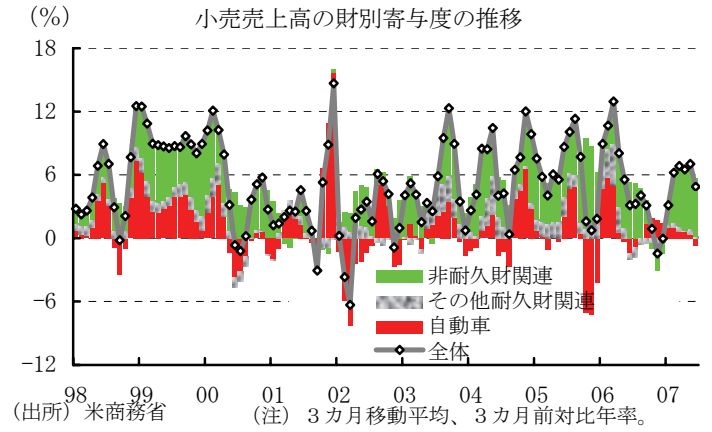
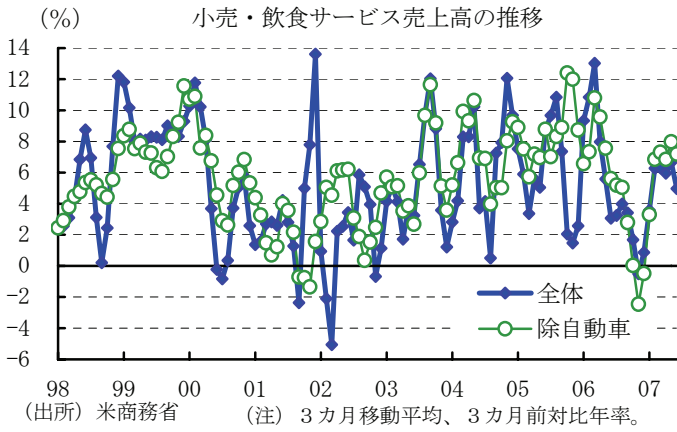


小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+4.8%（前月+5.5%）と小幅鈍化

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、6月に前月比+0.0%（前月同+0.9%：速報同+0.8%から上方改定）と横ばいとなった。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+4.8%（前月+5.5%）と年初の高い伸びからは小幅減速しているが、高い水準を維持している。4～6月期の実質個人消費は、自動車の減少により前期比年率+1.6%程度に減速すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。